

国民を分かってねえ政治家

「麻生首相が『国民は政治が分かってねえ』と発言」（世田谷通信）

麻生太郎首相は、25日、宮城県多賀城市で街頭演説した際に「政治はバクチじゃねえ（民主党に）ちよつとやらせてみるか、というのは違う話だ。まったく政治の優先順位が分かってねえ人が多すぎる」と発言し、集まっていた数少ない自民党支持者らをも唖然とさせた。これは連日の「自

民党劣勢」の報道に苛立っての発言のようにも思えるが、自民党が数日前から全国の家庭の郵便受けにいつせいにポストイン

グし始めた「民主党を中傷するビラ」の中に、この文言

庶民は売国政策に耐えられない

点を見ても、麻生首相がこの

良いと思ったからではなく、これまで自民党が行なってきた官僚主導のばらまきや福祉の切り捨てに堪忍袋の緒が切れたからではないのか。麻生首相がこの点を自覚できない限り、国民の「自民離れ」は今後も加速し続けるだろう。

一方、都内で行なわれた民主党の鳩山由紀夫代表の街頭演説では、集まった多くの聴衆の間を縫うようにして、こっそり紛れ込んだ自民党の運動員らが「知ってビックリ民主党、これが本性だ!!」という見出しの「民主党を中傷するビラ」を配布して回っていた。こうした自民党の悪質な妨害行為に対して、民主党は「とても政権与党とは思えない資質の低さ。自らの品位を汚している行為としか思えない」と相手にもしていない様子だった。（2009年8月26日）

映画「HACHI」

先週、久しぶりに金沢駅前の映画館に足を運びました。日本の純血種「秋田犬」（あきたいぬ）の実話、ハリウッド映画版です。

見終わっての感想です。ハリウッドの日本人文化に対する、畏敬の念を感じます。一時期の奢り体質から隔世の感があります。それだけ深刻な状況が社会の底辺に漂っていると推測します。それにしても、日本人の「犬」にも劣る精神の荒廃は嘆かざるを得ません。近年「忠誠」を失った人が近くにもいました。

(有)西川経営オフィスサービス

中村会計

事務所便り

2009年8月27日（木）NO 56

地域から明るい未来を作ろう

党のお試し政権に日本を任せられない」との副題がつき、民主党を一方的に中傷する汚い言葉が並んでいる。つまり、この麻生首相の発言は、ついに口がすべった「失言」ではなく、自民党の総意ということになる。それにしても「坊主憎けりや袈裟まで憎い」ならぬ「民主党憎けりや民主党支持者まで憎い」という気持ちも分からなくはないが、それを口に出して演説で述べることは果たして自民党にとって得策なのであるか。自民党から離れて行った有権者の多くは、民主党の政策のほう

お山の大将は案外弱いものは

お山の大将は案外弱いのである。日本人はアメリカをあまりにも強大な国家と勝手に思いこんでいる。アメリカと対等に交渉しようという愛国的な政治指導者を育ててこなかった。田中角栄までの志のある独立自尊の政治家を、アメリカは計画的にスキャンダル攻撃で叩きつぶしてきた。アメリカに引きずり回される「犬の首輪」から本気で脱出することを考えなければならない。

アメリカのFRB（日本銀行のように政府が株式を所有していない。ロスチャイルド系、ロックフェラー系財閥などの国際金融資本が、現在に至るまで最大の株主となっている。）がドル紙幣を印刷し世界にばらまいている。アメリカは日本に対して三つの騙しと脅しを仕掛けた。

①円高攻撃を加え輸出競争力をなくす。②財政赤字を山ほど抱え込ませる③超低金利を押しつける、の三つで必ずアメリカに日本の資金が流れる仕組みを作った。これは1988年竹下登総理が日米構造協議で米国に約束したものである。踊ったのが財務省官僚と、小泉・平蔵なのである。歴代総理は「仕方がない」が口癖の売国、属国政治家である。

